

法人理念・倫理・ガイドヘルパー心得

◎「理念・倫理」

私たちは、在宅での生活を望む全ての人々が、住み慣れた地域で、人としての尊厳を保ち、できるだけ健やかに、安心した在宅生活が継続できるよう専門的知識と技術及び倫理的自覚を持って他職種との連携に努めます。

1. 私たちは、人としての尊厳と権利を尊重します。
2. 私たちは、利用者の年齢、性別、社会的身分、経済状況に左右されず平等に対応し、態度、思想についても受け止める姿勢を持って、サービスを提供します。
3. 私たちは、利用者の安全を守り、安心した生活が継続できるよう専門的知識と技術の向上に努めるために継続学習と研究活動を行います。
4. 私たちは、地域における介護問題、生活に関する問題を解決するために、医療、保健福祉、行政、その他関連機関との連携に努め、総合的なサービス提供を行います。
5. 私たちは、利用者の人権を保護するために、個人に関する情報の秘密を守り、これを他者と共有する場合は、適切な判断のもとに対応します。
6. 私たちは、利用者の安全確保のため高齢者虐待についての見識を深め法令を遵守し適切に判断し対応します。

利用者の尊厳と自立支援を第一に考え、倫理的判断と法令遵守に基づき、安全で信頼されるサービスを提供する必要があります。現場で迷った場合は、早めに報告・相談することが重要です。倫理観を磨き続けることで、プロフェッショナルとして質の高い支援が可能となります。

(倫理的ジレンマへの対応)

利用者の自己決定 vs 安全	例として、認知症の方が危険な行動を希望する場合、安全を重視しつつ本人の意思も尊重してバランスを図る。
家族からの過剰要求	利用者の権利と安全を守りつつ、家族との調整を行う。
情報漏洩のリスク	利用者情報を安全に管理し、相談が必要な場合は上司に報告。

(倫理に加えて、法令遵守は専門職として不可欠)

介護保険法	適切な支援と自立支援の義務。
高齢者・障害者虐待防止法	虐待防止と早期対応。
個人情報保護法	利用者情報の保護と適切な利用。
労働基準法・道路交通法	労働条件と移動時の安全遵守。
医師法（医行為に関する制限）	非医療者による医行為の禁止。

同行援護、院内介助の違いや注意点についても解説 7分



<https://qr.paps.jp/BGeLt>

[裏面に続く](#)

「ガイドヘルパー心得」

★必ず守る事項

ヘルパーとして個人的な活動は慎み、事業所の指示によって行動する。

予期しないことが起こって判断に迷う場合は、まずは落ち着いて事業所に連絡をして相談する。

利用者から次のガイドの依頼を受けた場合は、必ず事業所へ連絡する。

活動によって知り得た事柄は、絶対に他人に話さない。

行き先での用件や利用者のプライバシーなどを詮索しない。

必要経費以外の金品等は受け取らない。利用者の個人的持ち物を預からない。金銭の立て替えもしない。

自分の住所や電話番号は教えない。利用者との個人的付き合いは控える。

★配慮する事項

買い物の際のお金のやり取りは、利用者と店側で行うようにする。

雨天の場合は、大きめの傘とタオルを用意する。（必要な対応を利用者と相談する）

利用者本人の自己選択を尊重する。計画通りに進めるが、本人の要望を聴ける余裕を持ちましょう。

同行援護でできることは？ してはいけないことは？ 8分



<https://qr.paps.jp/3vXXx>

研修アンケートにお答えください



<https://qr.paps.jp/mBi5A>